

営農情報 第9号

平成27年8月13日
アルプス農協管内農業技術者協議会

梅雨明け以降、暑い日が続く「てんたかく」は成熟が早まわっています。適期刈取りを徹底し、胴割米の発生防止に努めましょう。

また、コシヒカリの出穂期は、5月11日頃の田植えで8月1日頃と近年よりやや早めとなりました。収穫までしっかり水管理を行いましょう。

1 てんたかくの刈取り

てんたかく等の早生品種は、刈取時期の気温が高いため、刈遅れると胴割米が発生しやすくなります。籾の黄化率を確認し、適期に刈取りを行いましょう。

【刈取適期の目安】

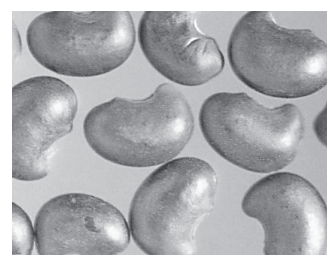
| 品 種 | 刈取適期 |
|-------|-----------|
| てんたかく | 8月20～23日頃 |

※てんたかくの出穂期：7月17日～7月19日の場合

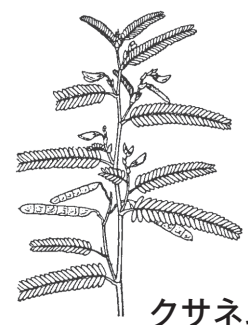
- 各地区の刈取適期表示札を参考にしてください。
- てんたかくは成熟期頃でも葉色が濃いため、必ず籾黄化率で刈取時期を確認しましょう。**（刈取適期は籾黄化率85%）**
- クサネム等の雑草の種子は選別が困難なので、収穫前にあらかじめ抜いておきましょう。
- ヤケ米発生防止のため、収穫後4時間以内に乾燥機に入れ送風しましょう。



点線内の籾が黄化した時が籾黄化率85%



クサネムの種子



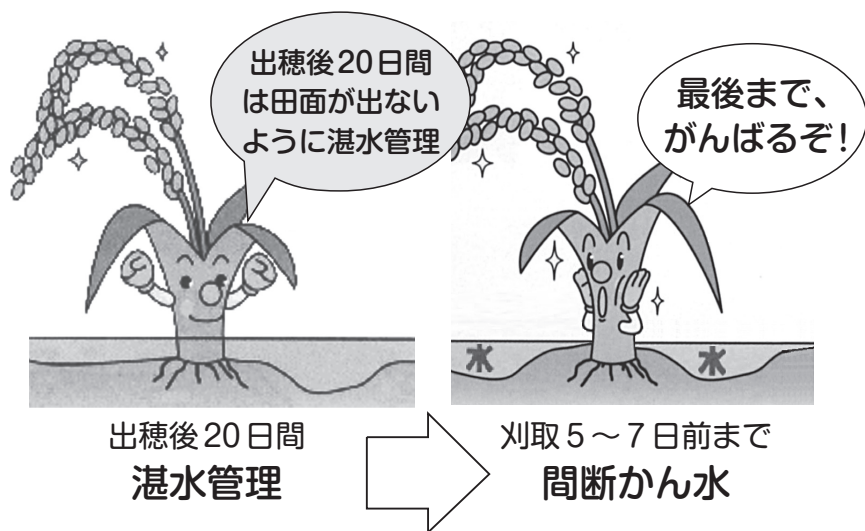
クサネム

2 コシヒカリの水管理

- 白未熟粒の発生を抑制し、登熟や品質の向上を図るため、**出穂後20日間は3cm程度の湛水状態**を保ちましょう。
- 出穂20日後から収穫5～7日前までは、稲体活力を維持するため**間断かん水**を行い、適正な土壌水分を保ちましょう。

「間断かん水」の効果

- 登熟が良好に進む
- 乳白、背白粒等の白未熟粒や胴割粒の発生を抑制し、品質の向上を図る



【間断かん水の方法】

- 乾きやすいほ場：1日湛水→2～3日落水
- 乾きにくいほ場：1日湛水→4～5日落水

- フェーン現象が予想される場合は、あらかじめ湛水しておきましょう。
- 下流域まで十分に水が行き渡るよう、**かけ流しを止め**地域での計画的な用水の利用に努めましょう。

今年も暑い日が続いています。農作業時は熱中症に注意しましょう！
～こまめに水分を補給し、無理せず適度に休憩をとりましょう～

適正な乾燥調製で高品質なアルプス米に仕上げよう

昨年のアルプス米は、13.9%以下の過乾燥米が24%と多く見られました(下図)。過乾燥米は、品質・食味の低下につながります。玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。
野鳥等の侵入防止、乾燥機、籾摺機等の清掃・点検を行い、異品種・異物の混入を防止しましょう。

1 乾燥作業 ～胴割米・過乾燥米の発生防止～

(1) 張り込み時のポイント

- ・収穫籾の水分を確認し、籾水分が25%以上または20%未満の場合は下表を参考にしましょう。

| 収穫籾の水分 | 乾燥作業の注意点 |
|--------|---|
| 25%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・急激な乾燥は胴割米の発生が多くなるため、2～3時間の通風乾燥を行い、送風温度を機種標準より下げて乾燥しましょう。 ・籾水分17%程度で一度乾燥を止め、半日程度休止した後に再乾燥(2段乾燥)をしましょう。 |
| 20%未満 | <ul style="list-style-type: none"> ・立毛中の胴割粒が懸念されるため、乾燥温度を機種標準より下げ、ゆっくり乾燥しましょう。 |

(2) 乾燥作業のポイント

- ・玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。
- ・外気温や湿度、張り込み量に応じた送風温度にしましょう。
- ・籾水分が17%以下になったら、手動水分計でこまめに水分をチェックし過乾燥を防ぎましょう。
- ・青米の混入状況に応じた乾燥機停止時の玄米水分で乾燥機を停止してください(下表参照)。

表 乾燥機停止水分の目安

| 玄米100粒中の青米粒数 | 乾燥機停止時の玄米水分 | 乾燥機停止後の水分変化 |
|--------------|-------------|-------------|
| 5粒以下 | 15.0～15.5% | 乾く(-0.5%) |
| 6～10粒 | 14.5～15.0% | 変化なし |
| 11粒以上 | 14.0～14.5% | もどる(+0.5%) |

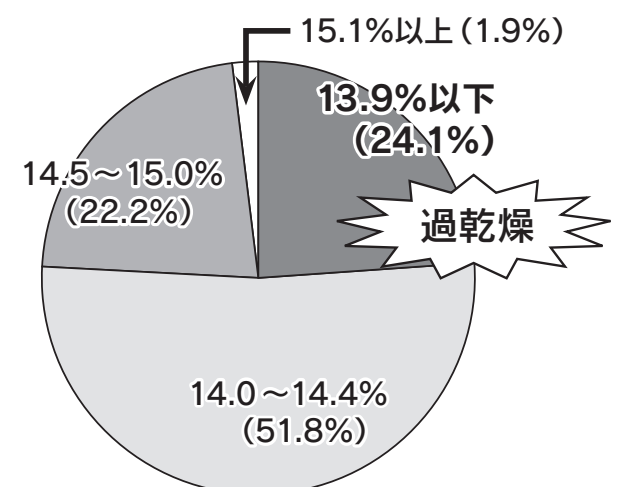


図 26年産アルプス米の水分頻度

2 調製作業 ～作業前の各機器の点検と作業の丁寧さが決め手～

(1) 籾摺機のポイント

- ・ゴムロールが減っている場合や硬化している場合は交換しましょう。
- ・籾の温度を常温までさまし、水分を確かめてから行いましょう。
- ・脱ぶ率が80～85%になるようゴムロールの間隔を調整しましょう。
- ・籾摺部へ脱ぶした玄米が再度入らないように、選別部を調整しましょう。

(2) 自動選別計量機のポイント

- ・皆掛重量は30.5kgに正しくセットしましょう。
- ・網目は1.9mmを使用し、適正な流量で屑米などは確実に除去しましょう。
- ・時々、検診済の台秤で計量し、重量が正確か確認しましょう。

◎カントリーエレベーターやライスセンターを活用しましょう

- 各種利用助成制度があります。
(平日利用助成、遠隔地利用助成、早生・晩生利用助成、大口利用助成)
- 平成27年度平日利用助成日は9月7日(月)～11日(金)・14日(月)・15日(火)です。
(生育・天候により変更になる場合があります。変更の場合は営農情報等で、ご案内致します)



栽培記録簿はすべて記入し、出荷前に農協へ必ず提出してください